ジェイソン・モーガン麗澤大学准教授

ラムザイヤー著書発刊記念　日韓米合同記者会見

お集まりの皆様の前に、そして舞台やリモートでお集まりの先生方のご一緒と、私がこの場に座っているの後ろに十年以上の歳月や体験があります。

十年以上前、早稲田大学ロースクールで留学していた頃、朝日新聞が慰安婦問題に関する数多くの記事を撤回したことは、私にとって大きな転換期でした。それ以前、慰安婦問題についてあまり深く勉強したことがなかったのです。しかし朝日の不祥事がきっかけで慰安婦問題が気になり始まって、アメリカの大学や大学院などで聞いたこと（つまり、慰安婦は強制的に連れてこられた人達だ、といった話）とだいぶ違うことを主張される日本や韓国の学者がおられることに初めて気がつきました。

西岡力先生に巡り合って、一冊の英訳の本を下さいまして、それを読んでみたら、心の中で抱き始めた、米学界が唱えているナラティブに対する懐疑が一層深まって、そこから秦郁彦先生、平川祐弘先生、山下英二先生、藤岡信勝先生、山本優美子先生などいろんな研究者などにも巡り合い、先生方の真心、真面目さ、真剣さ、徹底的且つ丁寧な研究の仕方などに感銘いたしました。

そのあと、李栄薫先生、Lee Wooyoun 先生、Kim Byungheon 先生、Park Yuha 先生、Lew Seokchoon 先生などなど、韓国でも、迫害を受けても屈せず、歴史の真実を追求されておられる先生方の存在や研究の成果にも巡り合いました。頭が下がらざるを得なかったのです。米学界で流行る薄っぺらくて短絡で根拠のない大きな嘘を長年信じ込んでいた自分が恥ずかしかったのです。今になってもそれからこれからも、前述した先生方の弟子でいたいと思います。

今年、ラムザイヤー先生と二人で、『The Comfort Women Hoax』、つまり、慰安婦問題という大きな嘘と題名される本をニューヨークの出版会社から英語で刊行致しました。その内容は、慰安婦問題の経営、北朝鮮の工作員と日本国内、アメリカ国内などのいわゆる学者が強制連行・性奴隷というでっち上げを作り出し、長年を渡って維持していた詳細と、それから日本、韓国、それからアメリカの学界の中から、そのでっち上げに反論する人々が現れるとどうやってキャンセルされるか、つまり日米韓で言論の自由が具体にどうやって取り消されているかについてです。『完全論破』の中にも出る内容、つまり慰安所制度、公娼制度などの法制史的、経済理論的な説明などもかなり入っています。

しかし、私とラムザイヤー先生は当然、日本人でもなくて韓国人でもなくて、アジア人でさえないのです。私たちが言っているのは、数十年を渡って、日本人と韓国人がずっとおっしゃっていることを繰り返しているだけです。

ここがポイントです。数十年を渡って、アメリカの学界は、なぜ、数多くのアジア人の研究の成果を無視して、数多くのアジア人の主張を見下して、数多くのアジア人にレッテルを貼ってーー歴史修正主義者、歴史否定主義者、極右、国粋主義者、云々ーー数多くのアジア人の知識的な貢献を拒否したのか、その傲慢な態度を改める気でしょうか。すなわちその数十年の中でアメリカ学界の大きな問題、アメリカ学界の植民地主義メンタリティーが潜在しているのです。アジア人の研究を蔑視していたのは、アメリカ学界にとって、大きな恥なんです。

もし心のあるアジアに関する研究活動を行っている学者が米学界の中に残っているのであれば、彼ら、彼女らに訴えます。私と一緒に反省して、これからアジアの学者の弟子になって下さい。